

「文教都市・高石」を目指して提案すべき主な政策

未来への**挑戦**。

子育て世代流入に向けての環境作り。

子ども医療費の拡充も必要ですがお金をかけなくても改善できる問題がいっぱい。いま一度、子育て世代の視点に立ち直した環境作りが必要です。

01 お産～子育てへの環境整備

公立の助産所「母子センター」は年々、分娩件数が増加しており、リピーターも多い事から、今後も活躍が期待できます。が、高石市から産科が閉院したのは大きな痛手。産科医不足という社会問題にも適応するため産科医の誘致という視点も必要です。

また、産褥期（床上げ期間）のお母さんを役所内であらひ回しにさせている出生届けやその他の申請のあり方も大いに問題。せめて1つの窓口で届出が済ませるようなワンストップ化を。お産のときから「子育てに優しい街」というイメージを抱いてもらうように。

02 交流しやすい場所の提供

児童虐待の大きな要因といわれる「母親の孤立化」。核家族化が進み、祖父母から子育ての知識を受け継ぐことは困難で、いざとなったら相談できる、預けられる祖父母も近くにいないという状況において、親同士が気軽に集まれる場所は必要不可欠です。

いつの時間でも利用できる児童館のような場所があれば、気軽に相談し合える仲間が増え、子育ての負担感も軽減されます。

また高石市は同居・近居の方々に対する減税支援があるのもっと周知に努めるべきです。（住宅購入時に限る）

文教都市と名乗るに相応しい教育環境を。

保護者のための子育て支援は大切。でも、子供の可能性を引き出す「子育て支援」はもっと大切なはずです。

03 通学区の改善や放課後の開放

高石市のいびつな通学区を解消し、公平な校区に直さねばなりません。南海本線の高架化完成を目前に今からでもゼロベースで地域を巻き込んで検討していく必要があります。それまでにも必要なところは調整校区として対応すべきです。

また、子供たちの「遊ぶ力」を育むために、放課後、校庭で思いっきり遊べる環境の提供が求められます。コミュニケーション能力を養うためにも、校庭で泥だらけになって、ときにはケンカもしながら…そんな友達同士で過ごす時間が大切だと考えます。

04 教師が専念できる環境を整備

現在の学校の先生は、事務作業や学校管理など、授業以外のやる事がいっぱいです。少しでも負担を軽くし、授業へ専念できるような環境整備が求められます。

たとえば、地域のアシスタントを学校に入ってもらい、事務作業や授業で使う道具を作ったりすることで、先生の負担はずっと楽になるはずで。

地域で学校にチカラを貸して、そして、それが地域コミュニティのさらなる充実に繋がるような連携のあり方を模索していくべきです。

未来のために必要な財政改革。

子供たちのような物言わぬ将来世代に負担を先送りするような政治を絶対的に否定します。後に続く者にも、しっかりと渡せるバトンを。

05 公共施設の計画的な維持管理

公共施設の管理は本当にいい加減です。建てるだけ建てておいて「維持するのにお金がかかるから閉鎖します」という信じられないようなことが実際に行われてきました。民間建築物の管理より杜撰と言われても反論できません。これも過去から未来へとツケを回されてきた一例です。

そうならないように、今のうちから全ての公共施設の維持管理計画、公共施設白書（ファシリティマネジメント）を作成し、場当たりの管理から決別すべきです。

06 議会の意識改革も必要

じつは、行政の財政難を引き起こしてきたのは議会にも責任があります。それはチェック機関としてのミスとかではなく、自分の選挙に勝つために一部の有権者のエゴを通してきたという経緯も無視できない現実です。

他市の例ですが、市民病院というものはその典型です。市民の願いを聞くのは我々の仕事ですが、あまりにも我欲に過ぎた時には「ノー」を毅然と言える議会でなければなりません。とはいえ、委縮なさらずに、ご意見はご遠慮なくお寄せくださいませ。

さいごまで安心して暮らせる住環境を。

定年退職後は20年以上も地域との関わりをもちながら住み続けることになります。遣り甲斐のもてるような居場所づくりが大切です。

07 介護予防の普及啓発こそ肝要

在宅療養が中心となる地域包括ケアが移行されようとしていますが、そのためには健康寿命（日常生活を普通に遅れる状態の年齢）を延ばし、できるだけ元気で過ごせるような環境が必要です。

とくに介護予防は、携わっている方々のやる気が何より大切。行政は、こういった市民主体の事業にこそ真心込めた対応を心掛けねばなりません。

活動拠点については、現状の施設以外にも多様にご利用いただけるよう柔軟に対応し、介護予防の普及啓発にチカラを注ぐべきです。

08 マンネリ化しない避難訓練を

年々、様々な取り組みで総合避難訓練が行われていますが、マンネリになってしまう恐れを感じています。そうならなれば、参加者数の減は当然のこと、実際の災害が発生したときに対応できなくなります。

それを防ぐために、発災型対応の避難訓練（シナリオのない避難訓練）の導入や、市民にご覧いただけるような職員の避難訓練の実施を検討する必要があります。確実に発生する南海・東南海地震に健全な危機感をもって備えておくべきです。

■昭和56年1月15日生（34歳）高石小、高南中、桃山学院、近畿大学卒。カンボジアでの体験で人生観が一変「自分も国や街のことを知ろう」と思い、合併選挙後、高石の将来に不安を抱き、インターン活動などを経て立候補。

■〒592-0002高石市羽衣3丁目4-16/Tel.072-263-0522/fax0723-50-0857/gavhattan@hotmail.com ■ <http://hatanakamasaaki.net/>「畑中政昭」で検索。■Facebookでは、気軽にお友達申請してください。

■趣味は料理と読書。料理はイタリアンを中心に作っています。変り種以外なら大抵のパスタは作れます。この時期は読書する時間がなかなか取れないので「買ったけど読破してない本」が積み上げられている状態です。

■議会ごとに発行してきた「日進月歩」は文章校正からイラストデザインまで自分で作っています。思いを込めたチラシは私の分身です。せめて読み終わってから古紙回収箱に連れていってくださると有難いです。